

これまでの検討結果まとめ

資料3

主な整備方針

資料4

施工イメージ

資料5(参考)

観客席数・トイレ配置数

観客席

観客席仕様

- アクセスしやすい箇所に「車いす使用者席」・「同伴者席」・「優先席(付加アメニティ席)」を設置。同伴者席・優先席は、可動式とし、スペースの対応
- 観客席階段には、手がかりを設置（通路幅員が確保できない場合等を除く）
- 観客席階段の注意喚起の点状ブロックについて、スペースの都合上段鼻との離隔が取りにくい場合は、二列を一行にするなどしてなるべく設置（狭あい部を除く）
- 階段段鼻にはコントラストを付けて視認性確保
- 電動車いす用コンセントを、各サイドの車いす席・同伴者席のうちの一箇所程度に原則設置

サイトライン

- 車いす使用者席前列の観客が立ち上がった場合でも、車いす利用者のサイトラインを原則確保

分散配置 (車いす使用者席)

- サイトラインの確保等に留意しつつ、車いす使用者席を垂直水平分散にて配置。既存施設で避難ルート確保が困難な場合などは、水平分散を実現

トイレ

機能分散

- 新施設においては、利用者それぞれに対応した「車いす対応トイレ（大型ベッドを付加したもの含む）」・「異性介助用の男女共用トイレ」・「手すり付トイレ」・「オストメイト対応トイレ」・「乳幼児対応トイレ」を用意
- 既存施設でも車いす対応トイレの利用集中を緩和するため、「手すり」・「オストメイト」・「ベビーチェア」・「おむつ交換台」の機能を男子・女子トイレになるべく分散して配置
- 既存施設について、「異性介助用の男女共用トイレ」が、スペース等の確保が出来ず設置困難な場合、車いす対応トイレを利用した際にプライバシーを確保できるよう、カーテンの設置を検討

トイレ 設備仕様

- 便房には、フラッシュランプを設置
- トイレ内の新設・改修するボタンの配置は、JIS配列にて統一
- 便房扉鍵には使用有無が分かるよう、新設や改修するトイレに表示錠を設置
- 便房扉等には、便房内に何の機能が入っているか分かるようピクトグラムを表示
- 便房に新設する手すりは、壁面等とのコントラスト確保に配慮
- 新施設の車いす対応トイレ・男女共用トイレにはカーテンを設置

サイン

配置
大きさ
書体

- 施設入口から観客席まで、連続した案内となるよう、施設規模に応じてサインを配置
- 総合案内板にて施設内で配置が限られる設備（カムダウン・クールダウンなど）はなるべく表示
- 機能分散したトイレ機能（ベビーチェア等）についてもなるべく早い段階で情報が入手できるように案内
- 立ち止まって見るサインや進行方向から見づらい場所に表示するサインの文字等の大きさは、ガイドラインよりも一回り大きい文字サイズとする
- 文字間隔は、誰にとっても表示内容が理解しやすいよう、意味のまとまりを考慮し調整
- 書体の選定に際しては、弱視など様々な方にとって見やすいフォントを選定

多言語対応
ピクトグラム
コントラスト

- 日本語・英語・ピクトグラムにより設備等を表示し、名称や英訳は施設間で統一
- ピクトグラムはJIS基準を採用。基準に定めのないピクトグラムは2018年10月に策定された標準案内用図記号等を施設間で統一して使用
- 色や文字を用いた案内を行う場合、色弱の方が認識しやすいよう、コントラストを確保
- トイレと更衣室の場所を示すピクトグラムは色や文字を用いる

その他

音声案内等

- 建物出入口に誘導鈴、一般トイレ出入口に簡潔な案内の音声案内を設置（観戦等に影響がある観客席に面した位置にあるトイレ等を除く）。
- 新施設には、非常用の誘導音・点滅装置付き誘導灯を各階の階段出口等と建物出口に設置(消防上、設置できない場合を除く)

視覚障害者
誘導用ブロック

- 施設メインエントランスなど大会イベント時に人の配置が想定される建物入口等まで敷設し、以降、施設内は人的対応など運営による誘導を想定

集団補聴設備

- 観客席には集団補聴設備(磁気ループ又はFM補聴システム)をなるべく分散して配置

カムダウン・クールダウン

- 新施設においては、救護室が近くにないエリアには、一時的に落ち着ける、カムダウン・クールダウンを用意
- 既存施設では恒常的な設置が困難な場合に、イベント時、一時的にカムダウン・クールダウンとして利用できる会議室・スペースあり

エレベーター
閉じ込め対策

- 新設する観客用エレベーターについては、扉へのガラス窓設置(防火上困難な場合等を除く)、監視カメラの設置、かご内外で情報共有できるパネル表示等の仕組みを導入

大型モニター

- 新設する大型モニターは全ての観客席から明瞭に見られるよう、設置できる位置や箇所数を確保